

## 令和4年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

開催日時) 令和4年7月21日（木）14～16時

開催場所) 倉敷市立美術館3階第2会議室

協議事項) 正副会長の選出について

報告事項) 令和3年度事業報告  
令和4年度事業計画

出席委員) 赤崎哲也委員、碓京子委員、片岡博行委員、石垣忍委員、中西善之委員、三宅誠治委員、宮原勝志委員、山崎法子委員、吉岡勉委員

欠席委員) 堀江明香委員

事務局) 井上正義教育長、三宅健一郎生涯学習部長、杉本紀明館長、奥島雄一主幹、武智泰史主幹、萩原知博主任、江田伸司学芸員、鐵慎太郎学芸員、狩山俊悟会計年度任用職員

傍聴者) なし

## 議事録（要旨）

### 1 開会

事務局：これより令和4年度倉敷市立自然史博物館協議会を開催する。

### 2 開会あいさつ

教育長：倉敷市立自然史博物館のライフパークに移転計画については、関係者一同、努力しているところであり、新たな展開があれば皆様にお伝えしたい。本日の事務局からの報告事項につき、忌憚のないご発言をいただければありがたい。

### 3 委員並びに職員自己紹介

### 4 協議事項

#### （1）正副会長の選出について

事務局：本日の協議会は昨年11月末に委員の任期満了に伴う改選後、最初の協議会にあたりますので、規則に基づいて、委員の皆様の互選により、会長・副会長を選任していただきます。立候補または推薦はございますか。

委員：推薦させていただきます。会長に石垣委員、副会長は三宅委員にお願いしたいと思えます。

事務局：ただいま会長と副会長のご推薦がありました。他に推薦などありますか。

事務局：会長は石垣委員、副会長は三宅委員にお願いしたいと思えます。石垣委員、三宅委員に一言ずつご挨拶をお願いします。

会長：倉敷市立自然史博物館はライフパークへの移転という課題を抱えている。当協議会はその諮問機関であり、それをサポートするよう、精一杯がんばりたい。

副会長：がんばりたい。どうぞよろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。それでは協議に移らせていただきます。

### 5 報告事項

#### （1）令和3年度事業報告

会長：令和3年度事業報告につき、事務局でお願いいたします。

事務局：令和3年度の館報にある倉敷市立自然史博物館中期計画の項目に沿って主だったものを紹介する。

「集めて未来につなげる」では、昨年度、畠田和一貝類コレクションなどの資料の受入れが5万点あり、例年よりも多かった。累積では収蔵標本が103万点となり、100万点を超えた。この点数は中四国地方では公立の自然史系の博物館ではトップになっている。当館の資料は、寄贈により収集したものが多く90%以上である。資料の活用件数は100件以上、それらを利用した研究業績は23件あった。

「教養文化の向上をめざす」では、自然の研究に関して、昆虫分野では海外の研究者との共同研究を行い、動物分野では岡山文庫への執筆を行っている。展示に関しては、美しい昆虫を中心に

紹介した第30回特別展「きらめき☆ときめき昆虫展」を開催した。人気は高かったが新型コロナウイルスの流行で会期半ばで終了せざるを得なかった。特別陳列では「宮沢賢治の石ものがたり」や「新着資料展」など計8回を行った。教育普及行事については自然観察会・博物館講座・各種教室などを予定していたが、新型コロナウイルスの流行で、参加者数を制限したり、中止や延期になったものもあり、参加者数は例年よりも大幅減となった。

「人づくりを担う」では、ボランティアの養成を行っている。標本作りに関し、脊椎動物グループなどの活動があるが、計413人の実績にとどまっている。他には職場体験なども受け入れているが、ほとんどの学校では中止している。博物館実習やインターンシップは例年どおり実施できた。調査研究については他館との共同研究や学術雑誌の査読などを行った。レファレンスは計941件対応した。

「連携して共に成長する」では、収蔵資料の活用について報告する。まちかど博物館は34台貸し出している。他館への標本の貸出しは5件行った。倉敷市立自然史博物館友の会との連携では共催行事の件数は30件あった。

「より魅力的な博物館をめざす」では博物館利用者数は24,322人で、コロナ前の半分程度に落ち込んだ。一方、インターネットではホームページやSNSの利用者は増えている。ホームページに関してはCMSに移行することでスマホ対応した。

## (2) 令和4年度事業計画

会 長：令和4年度事業計画につき、事務局でお願いいたします。

事務局：「倉敷市立自然史博物館2022年度イベントカレンダー」にもとづき、新規事業を中心に紹介する。

まず、展示では、第31回特別展「倉敷動物妖怪展 at 自然史博物館」が特別展示室にて行われている。これは岡山県ゆかりの妖怪を自然からのアプローチで展示しているものである。特別企画展「倉敷にクジラがやってきた！～海はつながっている～」も予定され、これは当館が倉敷市に漂着したクジラの骨格を入手し、展示するものである。そのほかに、特別陳列として「新着資料展<昆虫 澤田博仁コレクション>」や「畠田和一貝類コレクション展6 畠田和一が採集していた岡山県の絶滅危惧種2」などを実施・計画している。

自然観察会は倉敷市立自然史博物館友の会の協力も得ながら計23回、実施・計画している。実施場所は倉敷市内のほか、県内各地や鳥取県で行った。7月10日に実施した「夏だ！ 昆虫採集」は人気が高く、134人の参加があり、募集開始日の午前中には定員いっぱいになった。また、「高梁川流域自然たんけん」という高梁川流域連携中枢都市圏事業の自然観察会もスタートしている。

講座などについては募集人数を同居家族などの少人数に限って注意しながら実施していきたい。

「自然史博物館まつり」を予定している。11月3日は当館の開館記念日であり、新型コロナウイルスにより、1昨年・昨年と中止になっていたが、今年は11月3日～6日にかけて分散した形で行う予定である。そして、第31回特別展「倉敷動物妖怪展 at 自然史博物館」の関連イベントや、昆虫や植物の標本作りの講座も予定している。日頃の調査研究事業の成果を市民の方に紹介するために、学芸員研究紹介の博物館講座も予定している。そのほか、昆虫の専門家を目指す子どもたちを対象にした「むしむし探検隊」も実施している。

会 長：事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。

会 長：収蔵点数が100万点を超えたようだが、中四国ではサヒメルのほか、徳島県、愛媛県に大きな博物館があるようだが、それらと比べても多いのか。

事務局：調べた限りでは徳島県立博物館が50万～60万点で、それより多い収蔵点数がある博物館はないようである。なお、収蔵点数を数えていない博物館もある。また愛媛大学ミュージアムは昆虫学教室から引き継いだ昆虫標本が多く、昆虫標本だけで100万点を超えている。

会 長：100万点のうち、市民からの寄贈が90%を超えているというのは市民から倉敷市立自然史博物館が信頼されているということであろう。資料収集活動は目立たない事業ではあるが、今回、収蔵標本が100万点に達したということを広報することで、倉敷市立自然史博物館の資料収集活動に対する市民の理解を得るようにしてもらいたい。

## 6 その他

会 長：事務局の報告以外で何か意見などはあるか。

委 員：学校の団体見学に関し、県外からはどのあたりからきているか。

事務局：新型コロナ以降は少なくなっているが、それより前は関西圏からきていることが多かった。学校全体で見学というよりも何班かに分かれたグループ活動で、当館に来館するケースが多かった。

委 員：一般に学校の団体見学では、美観地区ではグループ活動が多く短時間の見学で終わるが、ライフパークでは学校全体での見学で時間を多くとって見学している。倉敷市立自然史博物館もライフパークに一体化すると、生徒が時間をとって見学できるようになると思う。

委 員：修学旅行で来館するとなると、新たな倉敷市立自然史博物館ではミュージアムショップが併設できれば良いと思う。

委 員：倉敷市立自然史博物館の行事のうちで人気の高いものについては参加申し込みの電話が殺到することも多いと聞いている。そして、別の要件での電話が繋がらないといったこともあるようである。表示受付の専用回線を設けてはどうか。

事務局：新型コロナになって参加できる人数の制限などがあり、募集要項の策定では電話が殺到しないように工夫はしている。今後、募集要項をさらに工夫することでその問題は解消するようになりたい。

委員：電話受付だと申込者の住所などの書き取りも面倒なので、インターネット受付も良いのではないか。

委員：うちの施設では、参加者の年齢層が高いので、インターネット以外に電話受付もしている。

会長：うちの施設ではインターネット受付のみである。小・中学生のお子様がいる比較的若い方の家庭の参加が多いので、そうしている。専用のメールアドレスを設けるとよいのではないか。

委員：倉敷市立自然史博物館のホームページがスマホ対応になって大変見やすくなった。また、特別展のチラシも親しみやすいデザインになった。一方、現在のバックヤードにある標本がすべて新館に収まるのかという点が心配である。また、新しい展示ではデザイナーの方に入っただいて専門的な部分以外の展示をレイアウトしていただくと良いものができるのではないか。

事務局：当館の収蔵品は市民の方からの寄贈品が9割を超えており、貴重なものと考え、新館でもそれは引き継ぐように考えている。また、展示に関してはリピーターを呼び込むため、常設展以外に中期的・短期的に可変性のあるものにしていきたい。

委員：標本は寄贈された直後は特別陳列などでお披露目されてマスコミなどで注目を浴びるが、それは一瞬のことであって、時間がたつと忘れられてしまう。標本は利用されて初めて価値がある。標本は調査研究を経てそれについて発表されることで、新たな知見が得られたり、この博物館にそのような標本がある、ということが恒久的に広く認知されると思う。職員の方だけで研究できるわけではないので、ボランティアの協力を得たりしながら今ある標本についてもっと研究され発表されていくことが望ましいのではないか。標本は置いておけば良いというものではない。

事務局：とりあえず、将来の利用を見込んでいつでも研究してもらえるように整理しておくのが大切であると思っている。現在のところ、寄贈標本の量が多く、整理が追い付いていないのが現状である。寄贈品の中には二度と入手できないものがあるので、受け入れる方向で収集している。そして、当館にこんな標本があるということも十分に公表できていないという課題もある。整理できたものについては、標本が利用できるように収蔵資料目録を刊行したり、全世界の自然史資料のデータベースが閲覧できるようなシステム（GBIF）へのデータ提供も進めたい。当館では植物分野がその点は最も進んでいる。また、近年は研究者の興味が分子生物学に移行しつつある。またアマチュアも標本の収集から昆虫の飼育へと関心が変化しつつある。標本は過去から現在までの環境変化を知るうえで重要なものあり、標本を研究する人材も育てていかななくてはならない。様々な教育普及活動を通して、標本の取り扱いを行える人材を育てていきたい。

会長：最近収蔵庫を展示室のように見せるという方式ととる博物館も出てきているようだ。小さいころから標本はこのように整理され役立っているということを知っていただけるといいような整備も必要と思う。

委 員：図書館などでは本に1冊ずつICタグをつけて棚卸しなどの在庫管理に活用している。自然史博物館の標本にもそのような方式を導入してはどうか。

会 長：ほかにはあるか。

委 員：まちかど博物館について、コロナ禍でこの博物館に来れない人のことを考え、標本の貸し出し事業を行っているのは良いことだが、複数のものを組み合わせて1つのテーマに沿った展示ができるようになっているのか。

事務局：高梁川流域連携中枢都市圏事業に位置づけて運用しており、高梁川流域のチョウ、クワガタムシなど複数のまちかど博物館の展示を組み合わせて1つのテーマ展示を作ることできるが、貸し出しのシステムは1台ごとになっており、他施設が先に単体で利用していると組み合わせられないこともある。

委 員：同じ展示が複数台あるのか。

事務局：複数台あるものもあるが、1台しかないものもある。

委 員：ぜひ高梁川流域以外の範囲に関するものもそろえてほしい。またメッセージ性のあるテーマの展示もできれば教育効果は上がると思う。また、できたら高梁川流域の昆虫百科みたいなものがインターネット上で見られたら昆虫採集に役立つと思う。

委 員：自然史博物館の移転についていうと、移転した後、この地にあった博物館の機能をどのようにその後、カバーしていくのか。たとえば、今までは観光客がこの自然史博物館に立ち寄って見学し、倉敷地域にはこのような自然があってこのような特徴があるということがわかっていたが、それがなくなってしまう。自然史博物館移転後はたとえば空き家を活用してその中にまちかど博物館のようなものを展示しておくとういことかと思う。それを見てさらに詳しく知りたいと思う人がライフパークまで足を運んで見学するということになると思う。今の場所に自然史博物館がなくなることで失われるものを補完していただきたい。

事務局：まちづくりに関するご提案、ありがとうございます。そのことについては市への担当部署に伝えておきます。

会 長：学術刊行物は多くがインターネット上で閲覧できるようになっている。倉敷市立自然史博物館の研究報告もぜひ電子化してインターネット上で閲覧できるようにしていただきたい。

会 長：本日の協議を終了させていただきます。

7 閉会あいさつ

生涯学習部長

8 閉会

事務局：これにて令和4年度倉敷市立自然史博物館協議会を終了する。

閉会后、第31回特別展「倉敷動物妖怪展 at 自然史博物館」展示解説

以上を、令和4年7月21日開催の令和4年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

令和4年 9 月 29 日

倉敷市立自然史博物館協議会

会長 石垣 忍

